

自己評価					学校関係者評価				
学校運営計画 (4月)					評価 (総合)				
学校運営方針		校訓「耕 土を耕し、心を耕し、未来を耕す」に基づいた学校経営を行う。土を耕すとは知 (学力、学習意欲)、心を耕すとは徳 (人格、道徳心)、未来を耕すとは夢 (自己実現) のことであり、本校の教育理念とする。			自己評価は				
昨年度の成果と課題		本年度重点目標		具体的目標		A			
【令和4年度の成果】 1 教育活動に制限はあったものの、ICT活用などの工夫により、概ね計画の通り実施することができた。また、新しい学習指導要領に対応した指導と評価の一体化や観点別評価の考え方などについて、職員間で情報共有することができた。 2 希望進路実現のため、各学年の到達状況を踏まえたキャリア教育を実施することができた。また、学年および各部が連携し、3年生全員の進路を決定することができた。 3 ホームページの充実に加えて、Instagramを利用した広報活動を開始した。校内における日々の授業風景を素早く発信することで、効果的な広報ツールとなった。 【令和4年度の課題】 1 ICTの活用も含め、教科・科目を越えた授業研究を通して、個々の指導スキルを磨き、授業改善を図る。 2 社会の変化と時代のニーズにあった教育活動を実践する。積極的な生徒指導を通して、自主性、積極性を育み、チャレンジ精神と主体性を持った生徒を育成する。 3 農業クラブ、家庭クラブをはじめとした専門性を生かせる教育活動を充実させることで生徒の専門性、自尊心を高め、主体的に進路決定ができる力を育成する。		教科横断的な視点で授業改善に取り組み、主体的、対話的で深い学びに繋がる学習環境の構築を図る。		全ての教科・科目でICTを積極的に取り入れ、授業改善に取り組むとともに教科間の連携を図り、主体的に学ぶ意欲を喚起する。研究授業をはじめ、OJTを通して指導力の向上を図る。					
		3年間を見据えたキャリア教育計画の充実を図り、生徒の多様な進路実現に向け、組織的な指導を行う。		3年間のキャリア教育計画を全職員で共有する。生徒個々のキャリアパスポートを基に、多様な進路希望に対応した指導を組織的かつ体系的に行う。					
		地域との連携や学校開放活動を通して、本校の魅力を発信し、地域社会の活性化と意欲ある入学志願者の獲得を図る。		ホームページとInstagramによる情報発信を定期的に行うことで、中学生、保護者、地域の理解を深める。映像配信や情報誌等による学校PRを随時行うとともに年間3回の中学校訪問を行う。体験入学の内容の見直しを行う。					
		資格取得や農業・家庭クラブにおける教育活動を活発化させるとともに専攻科との連携を図り農業教育の充実を図る。(生徒の自尊心とチャレンジ精神を育てる)		農業に関する3つの学科と本校専攻科との連携を推進し、プロジェクト学習等の充実を図る。生活デザイン科(家庭科)における学習活動の成果を積極的に発信する。					
		社会の変化に対応し、地域に必要とされる学校づくりを推進する。		各学科の特性を活かした産学官連携を維持・推進する。学科間の情報共有や連携機能を高めるための組織を設置する。					
		人権教育、道徳教育の充実を図り、いじめや差別を許さない人権感覚と豊かな人間性を持った生徒を育成する。		いじめの早期発見、未然防止や生徒の人権感覚の向上を図るため、人権教育並びに道徳教育の充実を図る。また、特別支援教育や人権教育について、外部講師の招聘も含めた職員研修を実施し、指導力向上を図る。支援が必要な生徒の情報共有し、定期的なケース会議を通して組織的対応を行う。					
		具体的目標		具体的方策		評価 (3月)		次年度の主な課題	
教務部	教務	新学習指導要領及び新教育課程を円滑に実施するとともに、一人一台端末の利用を推進する。		新たな観点別評価に関する協議の場を企画・運営し円滑な運用を進める。また、一人一台端末の活用について、研修・情報部と連携し推進する。		B	B	一人一台端末の活用について研修課と連携したICT活用研修会を実施する。大規模改修工事において、生徒の学習活動を遅滞させることなく円滑に進められるよう各部署と連絡・調整する。	
		中学校等との連携及び目的意識を持った生徒募集を推進する。		大規模改修工事において、生徒の学習活動を遅滞させることなく円滑に進める。中学校訪問を年3回、中学校教員向け学校説明会を年1回実施し、より効果的な生徒募集に繋がるようその内容を検討・実施する。中学生体験入学の実施方法を見直し、本校の学習内容や特色ある取組を理解してもらい生徒募集に繋げる(年2回実施)。		A	A	中学生及びその保護者、中学校関係者、塾関係者等に対して学校説明会、体験入学、中学校訪問等を行い、在校生の活躍や本校の魅力ある教育活動について周知し、目的意識を持った生徒の募集を行う。中学生やその保護者が全ての学科の学習内容を知ることが出来る「福農見学ツアー」を企画する。	
教務部	研修・図書	大型提示装置やタブレット等のICT機器を活用した授業を推進する。		教員の教育用タブレット1台支給に伴い、授業での活用に向けた職員研修を実施する。		B	A	googleフォーム機能を活用することで、業務軽減に繋がる研修を行ったが、全体での周知には至っておらず、ICT支援員との連携が必要である。	
		学校ホームページを活用した情報発信を充実する		研究授業週間において、「ICT機器の活用と授業展開」をテーマにした研究授業を実施する。中学生やその保護者が興味を持つ情報を積極的に発信し学校をPRする。学校全体・各学科において、月1回以上ホームページの更新を行う。		A	B	各学科によるホームページやSNS等の活用は出来ているが、一部の先生だけがアップしている状況である。研修を通して、職員全員が広報活動ができるよう研修をする必要がある。	
生徒育成部	生徒指導	基本的生活習慣の定着といじめや差別を許さず広く深い自尊心を持つ集団を育成する。		基本的生活習慣定着のために、チェック指導を含めた服装頭髪点検を月1回行い意識付けを図る。		B	B	教員間の共通認識をもとにチェック指導等ができていない。校則の見直しに伴う情報交換の場の設定が必要である。生徒指導課・生徒育成部会議が全員出席できるような環境整備(時間割等)が必要である。	
		生徒が主体的に学校行事や部活動、課外活動を運営し、挑戦し続ける人材を育成する。		立ち止まっただけの挨拶を奨励し、お互いを認めさせながら人権意識高揚を図る。		B	B	体育祭やユウカリ祭等の学校行事は、実行委員会、生徒会、農ク、家クを中心に主体的に運営できていた。また、地域活動への参加も多く、生徒の成長に大きく貢献できたと思う。	
		自らの心身の健康に関心を持ち、自己管理できる能力の育成を図る。		生徒会活動の活性化と、校則改定へ向けて生徒が参画できる環境を提供し生徒相互の意識高揚を図る。		B	B	保健委員会の活性化。SC活用事業は生徒の状況に合わせ実施できた。各分掌との情報共有を丁寧に行い、組織的な生徒支援の実現を図る。	
生徒育成部	保健・環境	清掃活動を通じて人間力の向上を図る。		生徒保健委員会活動の活性化を図る。		A	A	環境美化委員会の活性化。行事前の点検・美化コンクールを実施し、生徒の美化意識の向上をさらに高める。継続してゴミの持ち帰り指導を行いゴミ出しのマナーの遵守向上を図る。改修工事による清掃区域の見直しを行う。	
		3年生の進路決定率100%を実現する。		スクールカウンセラー事業を充実させ、早期に生徒支援できる体制を整える。また、エンカウンターを実施しヘルスプロモーションの啓発に努める。		A	A	企業訪問、開拓等に関しては、進路指導課及び新旧3学年を中心に精力的に取り組むことができた。特に、進路課としては、面談にて生徒の希望を聞き取ったうえでの実施ができた。	
		各学年と連携し、学年に応じた進路指導の充実を図る。		生徒一人ひとりの進路実現に向けて、進路指導部と各学年の連携強化を図る。		A	A	4年制大学及び短期大学への進学者35名、うち、国立合格者が2名と目標値を上回ることができた。指定校枠についても効果的に有効活用することができた。	
キャリア教育部	人権・同和教育推進	人権同和教育HRを中心に、生徒の人権意識を高めることに全職員で取り組む。		企業訪問においては各学科の特色を活かすための新規企業を開拓し、生徒一人ひとりの進路実現を目指す。		A	A	学年との連携については、行事等必要時には打合せ等が実施できたが、定期的な打ち合わせに機会が設定できなかった。特に、3学年との会議については、時間割の枠に組み込んでもらう必要性を感じた。	
		各学年や分掌との情報交換や情報共有を密に行なう。		専門高校の推薦枠や指定校推薦を活用し、学科の特色を活かした国公立大学を含む四年制大学及び短期大学への進学者を20名以上目指す。		A	A	各学年とも2~3回以上の進路ガイダンス、面接指導等の取り組みが実施できた。特に、外部との取り組みについては、学年主任と連携し、事前打合せを行うことができた。	
		各学年や分掌との情報交換や情報共有を密に行なう。		生徒一人ひとりの進路実現に向けて、進路指導部と各学年の連携強化を図る。		B	A	学期に1回の人権同和教育HRを充実させ、生徒に分かりやすいテーマで学年全体で指導する体制を築き指導することができた。また、事前の指導研修会を各学年で実施することで、共通理解のもと学年全体で指導することができた。	
キャリア教育部	職業教育	キャリア教育の推進に地域社会・産業に貢献できる人材の育成。		校内外の計画的な進路ガイダンスの実施と徹底した生徒面談を行い、進路意識を高める。		A	A	各学年とも2~3回以上の進路ガイダンス、面接指導等の取り組みが実施できた。特に、外部との取り組みについては、学年主任と連携し、事前打合せを行うことができた。	
		ワンヘルス教育を教科内に取り入れる。		人権同和教育HRの内容を充実させ、生徒の人権意識の向上を目指す。		A	A	学期に1回の人権同和教育HRを充実させ、生徒に分かりやすいテーマで学年全体で指導する体制を築き指導することができた。また、事前の指導研修会を各学年で実施することで、共通理解のもと学年全体で指導することができた。	
		生徒の主体的な活躍の場を設定(栽培指導・インターンシップの実施など)する。		事前の指導案の検討や学習会の開催、事後の生徒の状況把握に努める。		A	A	生徒支援委員会にて、各生徒の個別情報が集約されその情報を各学年で情報共有することができた。しかし、外部研修への参加については他の行事の関係で十分な参加体制を準備できなかった。次年度は支援委員会で集約した情報を各部署でも共有するよう働きかけ	
企画広報部	企画広報	行事の運営における分署間の連絡・調整を行う。PTA活動のスムーズな運営を行う。		地域交流、食農教育、HACCP教育、GAP教育を各科で行い学校全体の取組とする。		A	A	各学科において、地域交流や食育教育について取り組むことができ、特に都市圏学科ではブドウで県GAPの取得学習に力を入れ、昨年度取得した環境活用科のイネに続く取得を見据え、学習指導することができた。また、ワンヘルス推進研究指定校3年目として活動し、創立記念式典での今村獣医師による講話や「ワンヘルス2023」参加など、たくさんの行事に取り組みワンヘルスの意識定着をさせることができた。	
		保護者・同窓会、関係中学校との信頼関係を構築する。		ワンヘルスの理念を授業内に取り入れワンヘルス教育の充実を図る。		A	A	農業クラブ活動については、各種競技において上位入賞を目指したがプロジェクト発表や意見発表など優秀賞までの成績に終わり最優秀賞受賞までには至らなかった。今後は、来年度の鑑定競技事務局や再来年度の県農業クラブ事務局担当へ向けて準備を始め、農業クラブの各行事の成功へ向けた準備や各競技力向上へ向けた学校全体での指導方法など、専門教育の充実発展に努めるための工夫を検討する。	
		行事の案内文書や広報誌を通して、保護者、関係中学校に情報提供を行う。		プロジェクト推進委員、農ク担当者、家ク担当者、各科指導教員の連携を図り、上位大会出場を見据えた指導を行う。		A	B	入学式、PTA総会等、早期に立案することができたが、役割分担では、直前に変更せざるを得ないことも多かった。PTA役員・理事・委員の方達が非常に協力的で、会議への参加率も高く、各会議充実した話し合いを行うことができた。	
企画広報部	企画広報	行事の案内文書や広報誌を通して、保護者、関係中学校との信頼関係を構築する。		各種の農業クラブ競技会に向けた学習会を実施し、参加生徒の知識、技術の向上を図る。		B	A	学校案内を第1回中学校訪問までに完成させることができた。PTAと連携して定期的に学校新聞を発行することができた。中学生1日体験とPTA視察が昨年度の2倍になった。学科の教員への負担も増えており、方法を検討していきたい。	
		各部と連携を取りながら、各行事の計画を早期に立案し実施する。		学校の案内文書や広報誌を通して、保護者、関係中学校に情報提供を行う。		A	B	入学式、PTA総会等、早期に立案することができたが、役割分担では、直前に変更せざるを得ないことも多かった。PTA役員・理事・委員の方達が非常に協力的で、会議への参加率も高く、各会議充実した話し合いを行うことができた。	
		保護者・同窓会、関係中学校との信頼関係を構築する。		行事の案内文書や広報誌を通して、保護者、関係中学校に情報提供を行う。		B	B	学校案内を第1回中学校訪問までに完成させることができた。PTAと連携して定期的に学校新聞を発行することができた。中学生1日体験とPTA視察が昨年度の2倍になった。学科の教員への負担も増えており、方法を検討していきたい。	
項目ごとの評価		学校関係者評価委員会からの意見		A		ICTを活用した教育は、重要なことであるので、教員も研修等を重ねより、生徒の活動を充実させて欲しい。			
		校則について、生徒の意見を取り入れながら見直すことは大切である。		A		他者への寛容性を身につけさせて欲しい。			
		通学の様子をいつも見ているが、きちんとして地域住民として嬉しい。今後もルールやマナーを守って欲しい。		B		一人一人の意思を尊重し、進学・就職を後押ししていただいていると感じている。専門性の高い高校だけに、資格や免許取得などにもう少しアピールして欲しい思いがある。			
		PTAにおける活動では、広報誌の内容を充実させて、各委員会活動の様子や参加した保護者等の声なども掲載して多くの方に発信していきたい。そのことが、学校の広報にも繋がると考えている。		A		本校での活動をSNS、メディア等において発信できたことは、イメージアップにつながっていると感じている。さらに、ホームページの活用も活発化していただきたい。生徒が作成する学校生活の様子なども進めて行っていただきたい。			
		校内が清潔に保たれていると感じる。また、今後も生徒たちの安全や健康状況を適切に管理・指導していただきたい。		A		校内が清潔に保たれていると感じる。また、今後も生徒たちの安全や健康状況を適切に管理・指導していただきたい。			

自己評価					学校関係者評価	
学校運営計画(4月)				評価(総合)		自己評価は
学校運営方針		校訓「耕 土を耕し、心を耕し、未来を耕す」に基づいた学校経営を行う。土を耕すとは知(学力、学習意欲)、心を耕すとは徳(人格、道徳心)、未来を耕すとは夢(自己実現)のことであり、本校の教育理念とする。		A		
昨年度の成果と課題		本年度重点目標		具体的目標		A
<p>【令和4年度の成果】</p> <p>1 教育活動に制限はあったものの、ICT活用などの工夫により、概ね計画の通り実施することができた。また、新しい学習指導要領に対応した指導と評価の一体化や観点別評価の考え方などについて、職員間で情報共有することができた。</p> <p>2 希望進路実現のため、各学年の到達状況を踏まえたキャリア教育を実施することができた。また、学年および各部が連携し、3年生全員の進路を決定することができた。</p> <p>3 ホームページの充実に加えて、インスタグラムを利用した広報活動を開始した。校内における日々の授業風景を素早く発信することで、効果的な広報ツールとなった。</p> <p>【令和4年度の課題】</p> <p>1 ICTの活用も含め、教科・科目を越えた授業研究を通して、個々の指導スキルを磨き、授業改善を図る。</p> <p>2 社会の変化と時代のニーズにあった教育活動を実践する。積極的な生徒指導を通して、自主性、積極性を育み、チャレンジ精神と主体性を持った生徒を育成する。</p> <p>3 農業クラブ、家庭クラブをはじめとした専門性を生かせる教育活動を充実させることで生徒の専門性、自尊心を高め、主体的に進路決定ができる力を育成する。</p>		<p>教科横断的な視点で授業改善に取り組み、主体的、対話的で深い学びに繋がる学習環境の構築を図る。</p>		<p>全ての教科・科目でICTを積極的に取り入れ、授業改善に取り組みとともに教科間の連携を図り、主体的に学ぶ意欲を喚起する。研究授業をはじめ、OJを通して指導力の向上を図る。</p>		
		<p>3年間を見据えたキャリア教育計画の充実を図り、生徒の多様な進路実現に向け、組織的な指導を行う。</p>		<p>3年間のキャリア教育計画を全職員で共有する。生徒個々のキャリアパスポートを基に、多様な進路希望に対応した指導を組織的かつ体系的に行う。</p>		
		<p>地域との連携や学校開放活動を通して、本校の魅力を発信し、地域社会の活性化と意欲ある入学志願者の獲得を図る。</p>		<p>ホームページとインスタグラムによる情報発信を定期的に行うことで、中学生、保護者、地域の理解を深める。映像配信や情報誌等による学校PRを随時行うとともに年間3回の中学校訪問を行う。体験入学の内容の見直しを行う。</p>		
		<p>資格取得や農業・家庭クラブにおける教育活動を活発化させるとともに専攻科との連携を図り農業教育の充実を図る。(生徒の自尊心とチャレンジ精神を育てる)</p>		<p>農業に関する3つの学科と本校専攻科との連携を推進し、プロジェクト学習等の充実を図る。生活デザイン科(家庭科)における学習活動の成果を積極的に発信する。</p>		
		<p>社会の変化に対応し、地域に必要とされる学校づくりを推進する。</p>		<p>各学科の特性を活かした産学官連携を維持・推進する。学科間の情報共有や連携機能を高めるための組織を設置する。</p>		
<p>人権教育、道徳教育の充実を図り、いじめや差別を許さない人権感覚と豊かな人間性を持った生徒を育成する。</p>		<p>いじめの早期発見、未然防止や生徒の人権感覚の向上を図るため、人権教育並びに道徳教育の充実を図る。また、特別支援教育や人権教育について、外部講師の招聘も含めた職員研修を実施し、指導力向上を図る。支援が必要な生徒の情報共有し、定期的なケース会議を通して組織的対応を行う。</p>				
具体的目標		具体的方策		評価(3月)		次年度の主な課題
学 年	1 学年	将来を見通し、進路実現に向けた目標設定ができる生徒を育成する。	総合的な探究の時間を活かし、自分自身を見つめ、将来への展望を持つよう促す。	B	B	総探の時間を進路学習にあてることができたが、進学先や将来希望する職種にまでつなげることが個人差があった。基本的な生活習慣を身につけることができたが、自ら考えることや見通しを持って行動するということも個人差が出ているように感じたため、次年度ではこの個人差をできる限りなくするように指導していきたい。
		生徒全員が安全・安心で個性を生かしながら、周囲に気配りができる生徒を育成する。	教育活動全般を通して、互いの価値観を認め合う態度を育む。	B		
			学年行事等を通して、規範意識を高め、他者と協働する態度を身につける。	A		
	2 学年	中堅学年としての役割を自覚し、行動できる生徒を育成する	学年間の橋渡し、サポート等の役割を自覚し、日常的に意識して行動するように働きかける。	B	A	様々な学校行事の中で、2学年にしかできない役割を積極的にこなし、行事の成功に貢献する生徒の姿が多く見られた。次年度は最高学年としての役割をしっかりと意識させ、先輩たちの姿を見て学んだことを生かせるように指導する。
		集団の一員としての自己の在り方を見つめ、大切にしている態度を育成する	学校行事を通して、自己と他者の在り方を見つめ、共生するための方法を身につけさせる。	B		
			学校や学年、科への帰属意識を高め、集団で一つの目標に向かって努力する意識を持たせる。	B		
	3 学年	希望進路を100%実現する。	面談を3回以上実施し、進路指導課、各学科、保護者との連携を図る。	A	A	進路指導課と連携を図り、生徒全員に面談を3回以上、就職希望者に対して面接指導を6回以上実施することで、進路決定につなげることができた。1年次から情報提供を行い、国公立大学等の選択の幅を広げる指導を行うことが課題である。
		リーダーシップを発揮できる人材を育てる。	体育祭や文化祭などの学校行事におけるリーダーシップとそれを支える力を育成する。	A		
			最上級生として、より良い学校づくりを目指すため、生徒主体の学年集会などの機会を与える。	A		
	都市園芸科	地域との連携を図り、都市園芸科の価値を高める活動を実施する	近隣の幼稚園や小学校との交流を通して、生徒の主体性を伸ばす。	A	A	給食の食材提供や幼稚園等とのミカン狩り交流を行うことで生徒の主体性を伸ばす効果があった。今後は、生徒が主体となって計画・実施が出来るよう指導をする必要がある。
		プロジェクト学習の充実	プロファームを活用したプロジェクトを設定する。	B		
			生徒の主体的な活躍の場を設定し、学習に対して明確な目標を設定する力を養う。	A		
		専門性を活かした大学等の進学者者に対する指導を行う。	A			
環境活用科	学科としての学習内容の充実と進路実現に向けた指導を行う。	中学生に対して、生徒募集に繋げるような取組を行う。	A	A	進学希望者への指導は、学科内及び各教科との連携を行い、2年連続の国公立大を含めた4年制大学への合格につながった。次年度も充実した進路指導の継続を行っていききたい。また、コースの専門性を活かした情報発信を行って生徒募集につなげる取り組みもさらに検討していきたい。	
	学習意欲向上を図る教科指導をはじめ資格取得を充実する。	専門的な学習を行い、地域との交流を含め発表などのチャレンジができるように指導していく。	A			
		生徒自らが積極的に資格取得ができるように指導を行っていく。	B			
		学科の特色を生かし、生徒が主体的に交流事業を運営することにより、職業意識の向上およびキャリアアップを目指す。	A			
食品科学科	ICT機器を活用した地域社会との連携、ニーズに対応できる人材の育成	ICT機器を活用し地域及び異校種間との交流事業を行い、コミュニケーション能力及び主体性を高める。	B	A	子ども食堂やわくわく体験教室、各企業との商品開発など生徒主体となって交流実習等を運営することができた。次年度もこれを継承しつつ、新たな取り組みも始めていきたい。ただしICT機器を生かした地域等の交流事業が不足したため、今後積極的に活用していく必要がある。	
	キャリア教育及び資格取得の推進、特色ある取組の外部発信	生徒主体の学科集会を行い自主性を醸成するとともに、外部講師による指導や関係する資格取得の体制を整え、キャリア教育の推進を図る。	A			
		特色ある専門教育の授業等をホームページやSNS等を積極的に活用し、平日頃の取り組みを発信する。	B			
		外部講師による講義や食品関係の資格取得に向けて実施することができた。SNSによる学科の取り組みは頻繁に更新することができたが、学校ホームページの方を更新することが疎かになった。次年度はホームページも同時に更新できるように行う必要がある。	A			
生活デザイン科	専門学科としての学習内容の充実と家庭に関する学科の特色ある取組の外部への積極的発信。	外部講師や校外研修、資格取得を通して、専門的知識と技術の習得を目指すとともに、職業意識を向上させる。専門性を活かしたキャリア教育の推進を図る。	A	A	外部講師による講義・実習、校外研修は生徒の技術の習得や職業観の育成につながり大変有意義だった。次年度もぜひ継続させたい。今年度インスタグラムを充実させることができた。次年度はホームページとともに学科の広報活動につなげる。ICTの活用については、研修部やICT支援員の協力を得ながら努力していく。	
	ICT機器を活用した主体的・対話的な学びの充実とホームページやSNS等を利用して授業内容を週1回のペースで発信する。	他学科との連携や家庭クラブ活動を通して、地域や異年齢集団との交流を行い、コミュニケーション能力の育成を図るとともに、学習意欲と学習への充実感を高める。	A			
	地域や学科間連携を推進を行い、産業教育に貢献できる職業人の育成と進路実現。	体験入学やユウカリ祭、学習成果の発表会など生徒が主体的に運営する機会を設け、表現力や課題解決能力を高める。	B			
		本校で収穫された農産物を使用した調理実習や親子お菓子教室などを行い他学科との連携を深めることができた。次年度も当初から打ち合わせを行っておく。地域のイベントへの出演、スターバックスでの接客講習など生徒が主体的に活動し、成長が見られた。学習成果の発表の場を設定することでさらなる学習意欲向上・コミュニケーション力向上につなげたい。	A			
自己評価及び学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策						
評価項目以外のものに関する意見						
3年生のプロジェクト発表会を参観したが、どの発表も大変素晴らしい取組であった。活動をとおりて成長した姿が頼もしく感じられた。						